

所長の部屋



所長のひとことアドバイス

欧米型の食道癌

[2016年8月]

今回は飲酒や喫煙と関連した日本型の食道癌の話をしました。今回は欧米型の食道癌の話です。正式名で言うと、前者を扁平上皮癌、後者を腺癌と呼びます。

米国でも数十年前までは扁平上皮癌が主流でした。しかし次第に腺癌が増え、最近では食道癌の約2/3が腺癌になりました。食道の腺癌には前癌病変があり、逆流性食道炎(以下、逆食と略します。)との関連が指摘されています。

皆さんは食後に胸焼けを感じることはないでしょうか。これは逆食の症状かも知れません。逆食は中年から高齢の人、太っている人、食事を食べてすぐに寝る人、お腹を圧迫する人、猫背の人などに多く見られます。胃酸が食道に逆流するために、食道下端に炎症や潰瘍が出来る病気です。逆食が治る際には、しばしば食道表面が元通りに治らず、胃の粘膜そっくりに変化することがあります。この粘膜が広範囲に見られる状態(バレット食道)が、腺癌の前癌病変です。

従ってこのタイプの癌を防ぐには、逆食を予防する必要があります。それには太らない、食後すぐに寝ない、お腹を圧迫しないなどが必要です。今後は日本でもこのタイプの癌が増える危険性がありますので、逆流性食道炎の予防を心がけましょう。